

一 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること

(施行規則第 22 条の 6 第 1 号)

【教員養成の目標】

子ども教育学科における人材育成（教員養成）の目標は、「豊かな人間性と国際社会に即応できる独創性を備え、すぐれた教育能力や芸術教養を身につけ、人々の生活の充実と教育や芸術の発展に寄与することができる教員を育成する」こととしています。

教育と芸術には互いに支えあう関係にあります。教育活動の実際は、芸術に通じるわざであり、創造であるからであり、また、美しいものへの導きは人間形成の基礎となるものです。他方、芸術は自らの喜びを他に伝えようとする活動であり、そして、伝えることによって人間の生存を支えるエネルギーになっていきます。それは、教育活動に通じる働きです。教育と芸術の結びつきは、これからの本学の発展の力の基礎にあると考えています。本学はこの理念に基づいた教育の専門家を養成します。

【目標を達成するための計画】

これらの目標を達成するために、次の具体的な資質や能力を備えた教員を育成することとし、教育課程における授業科目との関連性を明確にしています。

子ども教育学科の学習目標(期待される学習成果)		主な対応科目
大項目	小項目	
【DP1】 教育・芸術を通じて人々の生活の質の向上を支援する人材の資質能力の基盤となる人間性・社会性。	1. 建学の精神に示した「教育と芸術の融合」の理念を踏まえ、その意義を理解して保育・教育実践に活かすことができる。	1年次 学習と表現の技法 2年次 教育人間学、学習と表現の技法 3年次 保育実践演習、教職実践演習(幼・小)、学習と表現の技法
	2. 自分の適性を理解し、保育・教育職に対する情熱と責任感をもち自ら学び、資質能力の向上に努め、成長しようとする意欲をもっている。	1年次 学習と表現の技法 2年次 教育人間学、教職入門 3年次 保育実践演習、教職実践演習(幼・小)
	3. 日本語を的確に活用することに加え、IT等の多様化するコミュニケーション手段を適切に利用し、日常生活や仕事に活かすことができる。	1年次 教育方法Ⅰ(情報機器の操作)、学習と表現の技法 2年次 国語(書写を含む)、学習と表現の技法 3年次 学習と表現の技法
	4. 社会人としてのマナーと倫理観を身につけ、常に組織や集団の中で自分が為すべきことを考えて行動し、責任を持ってやり遂げることができる。	1年次 学習と表現の技法 2年次 道徳性の教育、学習と表現の技法 3年次 保育実践演習、教職実践演習(幼・小)、学習と表現の技法、ボランティア活動とキャリア教育
	5. 豊かな人間性や高い人権感覚をもち、幼児・児童や教職員・保護者・地域等との信頼関係を構築できる素養を身につける。	1年次 憲法、子どもと家庭の福祉 2年次 人権と子ども 3年次 保育実践演習、教職実践演習(幼・小)、ボランティア活動とキャリア教育
【DP2】 専門教育科目の履修に必要な基礎学力。	1. 大学生としてふさわしい知識、教養を身につけることをめざし、社会情勢に関心をもち批判的思考力を養う。	1年次 学習と表現の技法 2年次 学習と表現の技法 3年次 保育実践演習、教職実践演習(幼・小)、学習と表現の技法
	2. 保育者・教育者に必要な専門的知識や技能、汎用的能力が身につけており、今日的な課題に対して冷静な分析力と多角的な視野をもって対応できる。	1年次 憲法、児童文学、英語Ⅰ、英語Ⅱ、運動と健康Ⅰ、運動と健康Ⅱ、地域社会概論、芸術文化論 2年次 学習と表現の技法 3年次 学習と表現の技法
	3. 日常的な自己管理・健康管理を徹底し、社会人に必要な生活習慣・職務習慣や体力の維持・向上に努めることができる。	1年次 運動と健康Ⅰ、運動と健康Ⅱ、学習と表現の技法 2年次 学習と表現の技法 3年次 学習と表現の技法
【DP3】 子どもたちの考え方や感情を受け止め、理解し、それを踏まえて子どもたちに適切に働きかける能力。	1. 子どもに対する深い愛情を持ちつつ、つねに「子どもの最善の利益」とは何かを考えて行動することができる。	1年次 保育原理Ⅰ(理念)、保育原理Ⅱ(課程と方法)、子どもと家庭の福祉、社会的養護 2年次 人権と子ども、社会福祉 3年次 保育実践演習、教職実践演習(幼・小)
	2. 保育の対象となる子どもにも共感をもって向き合い、一人ひとりの育ちを家庭環境を含めて理解し保育者としてその育ちを多角的に支援することができる。	1年次 子どもの保健Ⅰ、教育の心理 2年次 保育の心理学Ⅰ、保育の心理学Ⅱ、子どもの保健Ⅱ、子どもの食と栄養、発達と障害、人権と子ども、家庭支援論、子どもの生活習慣、相談援助、特別支援教育演習 3年次 保育実践演習、教職実践演習(幼・小)
	3. 保育・幼児教育・児童福祉について学問的見解や関係する法令ならびに制度の理解を基礎として、保育者としての自らの保育観、教育観を築くことができる。	1年次 教育の理念と歴史、保育原理Ⅰ(理念)、保育原理Ⅱ(課程と方法)、社会的養護、子どもと家庭の福祉 2年次 教職入門、社会福祉、生活指導 3年次 教育の組織と運営
【DP4】 幼児教育者の実際について職務を遂行していく能力。	1. 幼稚園・保育所等において実践される保育の内容とその実践方法を理解し、保育者として現場で実践に活かすことができる。	1年次 保育内容(言葉)、保育内容(健康)、保育内容(人間関係)、保育内容(音楽表現)、保育内容(身体表現)、保育内容(ドラマ表現)、保育内容(造形表現)、教育方法Ⅰ(理論と実践)、保育原理Ⅰ(理念)、保育原理Ⅱ(課程と方法) 2年次 教育の理念と歴史、プレ実習、保育教材研究A(うたと手遊び)・B(語りと人形) 体育、保育内容(環境)、保育内容総論 3年次 保育実践演習、教職実践演習(幼・小)、総合表現
	2. 特別なニーズのある子どもたちの特性を理解し、保育および養護内容、実践のあり方を熟知し、保育者として現場で実践に活かすことができる。	1年次 学習と表現の技法 2年次 発達と障害、障害児保育、社会的養護内容、乳児保育 3年次 保育相談支援、在宅保育論、特別支援教育演習
	3. 教育・保育上の問題や課題を子どもや自らが成長する機会と捉え、保育・教育者として培ってきた能力をもって主体的、意欲的に取り組み、解決を図ることができる。	1年次 学習と表現の技法 2年次 学習と表現の技法 3年次 保育実践演習、教職実践演習(幼・小)、外国語活動の指導、学習と表現の技法
【DP5】 音楽、運動、造形、ドラマ、こぼれを中心とする表現コミュニケーション能力。	1. 保育者・教育者に必要な表現コミュニケーション能力を十分に身につけ、子どもと子どもと保育者・教育者、子どもと地域、そして保護者と保護者を結びつけることができる。	1年次 保育内容(言葉)、保育内容(ドラマ表現)、プレ実習、学習と表現の技法 2年次 体育、生活、飼育栽培、学習と表現の技法 3年次 保育実践演習、教職実践演習(幼・小)、学習と表現の技法、ボランティア活動とキャリア教育
	2. 子どもの表現力を育むための日常的な実践を支える基礎的な技術を体得し、多様な表現コミュニケーション力をもった保育者として現場で活かせる実践力を身につける。	1年次 音楽Ⅰ(理論と基礎実技)、ピアノⅠ(ピアノの基礎)、保育内容(音楽表現) 2年次 保育内容(造形表現)、保育内容(身体表現)、保育教材研究A(うたと手遊び)・B(語りと人形) 3年次 音楽Ⅱ(うたと楽器)、ピアノⅡ(弾き歌いと伴奏) 総合表現、図画工作

二 教員の養成に係る組織及び教員の数、各教員が有する学位及び業績並びに各教員が担当する授業科目に関すること。

(施行規則第 22 条の 6 第 2 号)

【教員の養成に係る組織及び教員の数】

幼二種免

有明教育芸術短期大学（教職課程に係る教員組織・教科に関する科目）	
子ども教育学科	
幼稚園教諭二種免許状	
専任教員数 5 人（必要専任教員数 4 人）	
教員名及び担当授業科目	
①三澤裕見子	教授 【国語（書写を含む）】
②山田麻美子	教授 【音楽Ⅰ（理論と基礎実技）、ピアノⅠ（ピアノの基礎）】
③松田扶美子	講師 【音楽Ⅱ（うたと楽器）】
④有福一昭	教授 【図画工作】
⑤菊地大介	准教授 【体育】

有明教育芸術短期大学（教職課程に係る教員組織・教職に関する科目）	
子ども教育学科	
幼稚園教諭二種免許状	
専任教員数 7 人（必要専任教員数 3 人）	
教員名及び担当授業科目	
①田中正代	准教授 【教職入門、教育方法Ⅱ（理論と実践）、教職実践演習（幼・小）】
②木田竜太郎	准教授 【教育の理念と歴史、教育の組織と運営】
③赤坂澄香	講師 【保育の心理学Ⅰ、保育の心理学Ⅱ、保育内容（人間関係）、子ども理解の方法】
④杵鞭広美	教授 【発達と障害、相談援助】
⑤橘和代	講師 【保育内容総論】
⑥深澤瑞穂	教授 【保育内容（環境）、保育内容（造形表現）、事前事後の指導（幼稚園）、教育実習（幼稚園）】
⑦山崎 美穂	講師 【教育方法Ⅰ（情報機器の操作）】

小二種免

有明教育芸術短期大学（教職課程に係る教員組織・教科に関する科目）	
子ども教育学科	
小学校教諭二種免許状	
専任教員数 5 人（必要専任教員数 5 人）	
教員名及び担当授業科目	
①三澤裕見子	教授 【国語（書写を含む）】
②山田麻美子	教授 【音楽Ⅰ（理論と基礎実技）、ピアノⅠ（ピアノの基礎）】
③松田扶美子	講師 【音楽Ⅱ（うたと楽器）】
④有福一昭	教授 【図画工作】
⑤菊地大介	准教授 【体育】

有明教育芸術短期大学（教職課程に係る教員組織・教職に関する科目）

子ども教育学科

小学校教諭二種免許状

専任教員数 5 人（必要専任教員数 4 人）

教員名及び担当授業科目

- | | | |
|--------|-----|--|
| ①田中正代 | 准教授 | 【教職入門、道徳性の教育、特別活動の指導、教育方法Ⅱ（理論と実践）、生活指導、教職実践演習（幼・小）、事前事後の指導（小学校）、教育実習（小学校）】 |
| ②木田竜太郎 | 准教授 | 【教育の理念と歴史、教育の組織と運営、社会科指導法】 |
| ③赤坂澄香 | 講師 | 【保育の心理学Ⅰ、保育の心理学Ⅱ】 |
| ④杵鞭広美 | 教授 | 【発達と障害、相談援助】 |
| ⑤山崎美穂 | 講師 | 【教育方法Ⅰ（情報機器の操作）、算数科指導法、事前事後の指導（小学校）、教育実習（小学校）】 |

【各教員が有する学位及び業績】

【各教員が担当する授業科目】

三 教員の養成に係る授業科目、授業科目ごとの授業の方法及び内容並びに年間の授業計画に関すること。

(施行規則第 22 条の 6 第 3 号)

【教員の養成に関する授業科目】

幼二種免

分野	法令指定科目	本学開講科目	必修・選択	単位数	開設学期
免許法 66条6 関係科目	日本国憲法	憲法	必修	2	1後
	体育	運動と健康 I	必修	1	1前
		運動と健康 II	必修	1	1後
	外国語コミュニケーション	英語 I	必修	1	1前
		英語 II	必修	1	1後
情報機器の操作	教育方法 I (情報機器の操作)	必修	2	1前	
教科に 関する 科目	国語	国語(書写を含む)	1科目 選択必修	2	2後
	算数	算数		2	2前
	生活	生活		2	2後
	生活に準ずる内容の科目	飼育栽培		2	2前
	音楽	音楽 I (理論と基礎実技)	必修	2	1前後
		音楽 II (うたと楽器)	必修	2	2前後
		ピアノ I (ピアノの基礎)	必修	2	1前後
		ピアノ II (弾き歌いと伴奏)	必修	2	2前後
	図画工作	図画工作	必修	2	3前後
	体育	体育	必修	2	2前後
教職に 関する 科目	教職の意義等に関する科目	教職入門	必修	2	2前
	教育の基礎理論に関する科目	教育の理念と歴史	必修	2	1前
		教育の心理	必修	2	1前
		保育の心理学 I	必修	2	2前
		保育の心理学 II	必修	1	2後
		発達と障害	選択	2	2後
		教育の組織と運営	必修	2	3後
	教育課程及び指導法 に関する科目	保育内容概論	必修	2	2後
		保育内容(健康)	必修	2	1後
		保育内容(人間関係)	必修	2	1前
		保育内容(環境)	必修	2	2前
		保育内容(言葉)	必修	2	1前
		保育内容(音楽表現)	2科目 選択必修	1	1前
		保育内容(身体表現)		1	1後
		保育内容(ドラマ表現)		1	1前
		保育内容(造形表現)		1	1後
		教育方法 II (理論と実践)	必修	2	1後
	教育方法 I (情報機器の操作)	必修	2	1前	
	生徒指導、教育相談及び 進路指導等に関する科目	子ども理解の方法	必修	2	3前
		相談援助	必修	2	3後
教育実習	事前事後の指導(幼稚園)	必修	1	2年通	
	教育実習(幼稚園)	必修	4	2前後	
教職実践演習	教職実践演習(幼・小)	必修	2	3後	

小二種免

分野	法令指定科目	本学開講科目	必修・選択	単位数	開設学期	
免許法66条6 関係科目	日本国憲法	憲法	必修	2	1後	
	体育	運動と健康Ⅰ	必修	1	1前	
		運動と健康Ⅱ	必修	1	1後	
	外国語コミュニケーション	英語Ⅰ	必修	1	1前	
		英語Ⅱ	必修	1	1後	
情報機器の操作	教育方法Ⅰ(情報機器の操作)	必修	2	1前		
教科に関する科目	国語	国語(書写を含む)	国語、算数、生活、飼育栽培から1つ選択必修。	2	2後	
	社会	社会		2	2前	
	算数	算数		2	2前	
	理科	理科		2	2後	
	生活	生活		2	2後	
	生活に準ずる内容の科目	飼育栽培		2	2前	
	音楽	音楽Ⅰ(理論と基礎実技)	必修	2	1前後	
		音楽Ⅱ(うたと楽器)	必修	2	2前後	
		ピアノⅠ(ピアノの基礎)	必修	2	1前後	
		ピアノⅡ(弾き歌いと伴奏)	必修	2	2前後	
	図画工作	図画工作	必修	2	3前後	
	家庭	家庭	選択	2	2前	
	体育	体育	必修	2	2前後	
教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	教職入門	必修	2	2前	
	教育の基礎理論に関する科目	教育の理念と歴史	必修	2	1前	
		教育の心理	必修	2	1前	
		保育の心理学Ⅰ	必修	2	2前	
		保育の心理学Ⅱ	必修	1	2後	
		発達と障害	選択	2	2後	
		教育の組織と運営	必修	2	3後	
	教育課程及び指導法に関する科目	国語科指導法	9科目から6科目選択必修。ただし、音楽科・図画工作科・体育科から必ず2科目以上を選択。	2	2後	
		社会科指導法		2	2後	
		算数科指導法		2	2後	
		理科指導法		2	2後	
		生活科指導法		2	3前	
		家庭科指導法		2	3前	
		音楽科指導法		2	3後	
		図画工作科指導法		2	3後	
		体育科指導法		2	3後	
		道徳性の教育		必修	2	2前
		特別活動の指導		必修	2	2後
	教育方法Ⅱ(理論と実践)	必修	2	1後		
	教育方法Ⅰ(情報機器の操作)	必修	2	1前		
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	生活指導	必修	2	3前	
		相談援助	必修	2	3後	
	教育実習	事前事後の指導(小学校)	必修	1	2年通	
教育実習(小学校)		必修	4※	2前後		
教職実践演習	教職実践演習(幼・小)	必修	2	3後		

※教育実習(小学校)の4単位のうち、2単位は教育実習(4単位)を読み替える。

【授業科目ごとの授業の方法及び内容】

四 卒業者の教員免許状の取得の状況に関すること

(施行規則第 22 条の 6 第 4 号)

卒業者の教員免許状の取得状況 (過去 3 年間)

【子ども教育学科】

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
幼稚園教諭二種免許状	72 人	82 人	75 人
小学校教諭二種免許状	20 人	13 人	12 人

五 卒業者の教員への就職の状況に関すること

(施行規則第 22 条の 6 第 5 号)

卒業者の教員への就職者数 (過去 3 年間)

【子ども教育学科】

卒業年度	学校種別	
	幼稚園	小学校
平成 27 年度	4 人	5 人
平成 28 年度	15 人	1 人
平成 29 年度	4 人	7 人

六 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組に関すること

(施行規則第 22 条の 6 第 6 号)

教員養成の質の向上を目指し、本学子ども教育学科 (3 年制) では次の取り組みを行っています。

(1) 入学後の新入生オリエンテーション、新入生研修などを通して 3 年間の目標を明確にし、学業への意欲とモチベーションが維持できるよう取り組んでいる。

(2) 3 学年縦割りで編成された「学習と表現の技法」(クラス・セミナー・1 クラス 15 人程度) を通して、入学から卒業までの学修の過程を支援し、教職に関する基本的な理解を得られるよう図っている。具体的には、① 課題研究をとおして個別およびグループで学習方法を学ぶ、② 自身の考えをもち他者に伝達する手法を修得する、③ 自ら研究課題をみつけて調査し、その成果をプレゼンテーションする意欲と能力高めることをねらいとし、3 年間を通して学習課題に主体的に取り組む力を身につけられるよう実施している。

(3) 実習は、1 年次の「プレ実習」(事前体験実習) から 3 年間を通して段階的に経験していけるよう指導している。「プレ実習」では事前事後指導と 3 日間の体験実習を行い、子どもとのかかわりと保育者の職務に関する基礎的知識を学んで 2 年次以降に向けた各自の課題のとりまとめを行う。2 年次には教育実習(幼稚園)、3 年次には教育実習(小学校)を実施し、学年ごとに説明会を開催して実習に関する具体的な諸指導を行っている。

実習終了後は、「学習と表現の技法」において実習の体験発表を行ない、省察や改善点を以後の学習に役立てている。

(4) 「履修カルテ」によって教職科目の省察を行い、「教職実践演習(幼・小)」と「学習と表現の技法」に反映させている。「教職実践演習(幼・小)」では、江東区教育委員会の協力を得て区内の幼稚園、小学校への訪問や先生方を大学に招いて教育現場の実情を知る機会を設けている。

(5) 江東区教育委員会と協定を結び、平成 28 年度より江東区立幼稚園、平成 29 年度より江東区立小学校に 3 年生の学生ボランティアを派遣している。学生は、この経験によってより実践的に教職について学び経験する機会を得るとともに、地域貢献の一端を担う経験にもなっている。

(6) 本学子ども教育実践総合センターが主催する子育て支援事業(親子サロン、親子ひろば FRAN、子育て講座等)への参加によって、保護者支援の実際を学ぶ機会を設けている。